【授業科目】特別研究Ⅲ（在宅看護学）　　Master's ThesisⅢ

<table>
<tr><th colspan="2">担　当　教　員</th><th>開講年次</th><th>選択必修</th><th>単位数</th><th>時間数</th><th>授業形態</th><th>オフィスアワー</th></tr>
<tr><td colspan="2">多次 淳一郎、杉崎 一美</td><td>２年次
後　期</td><td>選　択</td><td>３</td><td>９０</td><td>演　習</td><td>巻末
掲載</td></tr>
<tr><td>授業概要
（内容と進め方）
及び
課題に対する
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法</td><td colspan="7">特別研究Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、論文作成までの過程を修得する。
倫理的問題に配慮しながらデータ収集を行う。収集したデータについて、さまざまな視点から分析・検討する。
収集したデータについて、特別研究Ⅰで行った文献レビュー（先行研究）と比較検討を行う。
本講義を通して、序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論、研究の限界等の視点から論文作成を行う。
作成した論文については、プレゼンテーションを行う。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／適宜スーパーバイズを実施する。プレゼンテーション、討議を通して、ピアおよび教員からコメントを行う。</td></tr>
<tr><td>授業の
位置づけ</td><td colspan="7">本大学院のディプロマ・ポリシー①③④の達成に寄与している。</td></tr>
<tr><td>到達目標
（履修者が到達すべき目標）</td><td colspan="7">１.研究を進めるにあたっては、対象者に倫理的配慮をした上でデータを収集し、客観的･科学的に分析できる
２.研究結果をわかりやすく記述し、客観的･科学的な考察を加えて論文を作成できる。
３.研究成果の信頼性・妥当性について客観的に分析しながら論文を作成することができる。
４.研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深めることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">時間外学習に
必要な
内容・時間</td><td colspan="7">適時助言する（課題により 1～5 時間）。</td></tr>
<tr><td colspan="7">※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第 1～3 回　　研究対象者、研究協力施設との調整

第 4～7 回　　データ収集・整理、データの保管

第 8～15 回　　データ分析　研究デザインに応じたデータ作成、指導者からのスーパービジョン

第 16～43 回　修士論文の作成

１）序論　２）方法　３）結果　４）考察　５）看護実践への提言　６）結論　7）要約

第 44, 45 回　発表と評価</td><td>全て
多次
杉崎</td></tr>
<tr><td>評価方法
評価基準</td><td colspan="7">学位論文審査（学位規程による）</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="3">なし</td><td>参考書等</td><td colspan="3">配付資料
参考文献についてはその都度提示する。</td></tr>
</table>